

魔法の宿題 プロジェクト 活動報告書

報告者氏名：押塚 雄史 所属：千葉県立東金特別支援学校 記録日： H28年 2月 25日
キーワード：「知的障がい」「防災教育」「自己肯定感を高める」「iPadを防災ツールとして活用し生徒の役割をつくる」

【対象児の情報】

○学年 高等部3年生

○障害名 知的障がい

○障害と困難の内容

- ・衝動性があり、集団行動が苦手なため、活動から離れることがあるが、目的をはっきりと示し、本人が納得した上で活動する場合は力を発揮することができる。
- ・これまでの失敗経験から自己肯定感が低く、やり遂げる前に諦めて取り組みをやめることがある、または最初から参加しないことがある。自分の知識や頑張りなどを他者に認めてもらいたいと感じているが、自分から行動することは少ない。
- ・自分に自信がなく、苦手な活動を避け、「嫌だ、やらない」といった発言が目立つことから、周りの友達からの評価が低い。本人は、できることを知ってもらいたいという気持ちを持っている。

○当初のねらい ①必要な情報を取り出し、活用したりできる力の育成
②住んでいる地域の防災マップの作成・活用
③iPadを防災ツールとして活用し、他者に紹介していくことで自己肯定感を高める。
④自己分析を行い、自分自身を見つめる学習の設定

○実施期間 平成27年4月～平成28年2月

○実施者 押塚 雄史

○実施者と対象児の関係 学級担任、安全・防災教育主任

【活動内容と対象児の変化】

・対象児の事前の状況

- ・漢字の読み書きは小学2年生程度。連絡帳の記入はひらがなで書く。
- ・高等部1年生時は毎日遅刻をしていた。学習への意欲が低く、気持ちの乗らない活動には不参加、もしくは特定の教師の介入で参加ができる。
- ・人との関わりは、特定の友達、教師など、限られている。
- ・就職したいという思いは強いが、実態としては難しく、本人の気持ちとにずれがある。
- ・自分に自信がなく、できる活動でも参加をしないことがある。
- ・地域の避難所・消防・警察など災害時に役立つ施設についての知識がある。
- ・本校が、防災教育を進めていることもあり、防災について関心がある。

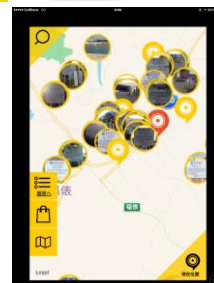
・活動の具体的内容

本校の特徴でもあり、生徒の関心のある分野の防災を取り上げ、iPad を防災ツールとして活用しながら、生徒の自己肯定感を高めていける実践を行った。

①地図アプリ「マップモ」を使って自分だけの防災マップ作り

○iPad の特徴として

- ・持ち運びしやすい
- ・カメラ機能⇒その場で写真が撮れる
- ・GPS機能⇒現在地がわかる、写真を撮ったところに“ピン”が立つ
- ・地図アプリ⇒撮った写真にメモをつけて、地図上に貼ることができる
⇒防災マップ作りに最適である



○地図アプリ「マップモ」

地図上の地点を長押しして、写真を撮ったり、メモを記入したりできるので、近隣の避難所や東金地域の危険箇所を撮影&気付いたことのメモをとった。撮影とメモを積み重ねることで「自分だけの防災マップ」を完成させることができた。

○完成させたマップを使い、下校時に、帰宅訓練を行った。

例「川の増水に警戒して帰宅」

「土砂崩れにより〇〇地区を避ける」



自分の作ったものを友達に見せ、事故の多い地域や、土砂崩れの危険地域などを教える姿が見られた。

②「守るリュック」を使って災害に対する知識を身に付ける・自分について知る



教科の時間で「守るリュック」の自分について項目の記入を行った。

「得意なこと」「苦手なこと」「パニックになったとき」「気持ちを安定させるもの」などの項目にそって記入していくことで、自分のことに興味をもち、自身を見つめるきっかけとなっていた。

防災や震災時に必要な知識を身に付けたり、いざとなったときにヘルプカードの代わりにもなることを理解し、夏休みに行った地域との炊き出し訓練では、災害グッズとして iPad を持参した。



導入当初、苦手なことについてはすぐに記入ができたが、得意なことについて記入ができなかった。



漢字の読み書きは小学2年生程度だが、記入していくことが必然となり、漢字での入力が増えていった。

また、4月の導入当初50音ひらがな入力だったものが、9月にはローマ字入力で行えた。

③防災マップの発展

「自分だけの防災マップ」完成後、作ったものをみんなに見せたいという気持ちが生まれた。

生徒会と連携し、生徒が作成した防災マップと写真、メモを参考に大きなマップを作り、全校集会で発表するという活動を始めることにした。アプリを拡大するのではなく、手作りで行った。

生徒会生徒に対し、地区の特徴をiPadを見ながら説明したり、自分の撮影した写真をマップに掲載するというアイデアを出したりした。



友達に教えながらマップ作りに取り組んだ



初めて全校生徒の前で発表をすることができた



完成した防災マップ

・対象児の事後の変化

①「守るリュック」の「得意なこと」の項目に書けることが増えた。

導入当初、自己肯定感の低さから「得意なことはありません」と話していたが、9月の防災マップ完成後と、12月の全校集会発表後とで、書ける項目が増えて行った。

定期的に振り返りをしていったことで、自分自身の変化にも気付くことができた。

②活動に自信、積極性もUP

完成した防災マップの校内への掲示や、「ぼうさい甲子園」発表用掲示物作り、地域の長寿会との交流会の司会への立候補など、積極的な姿が多くみられるようになっていった。

授業を抜け出す、参加できないといった行動も減っていった。

「自分について」の自己分析の変化

4月

ありません、書けません

得意なこと

9月

防災についてよく知っている
本気でやればできる

得意なこと

12月

防災についてよく知っている
本気でやればできる
きんちょうしないで発表できる
自分で決めたことはやる（できる）
防災について人に教える

主体的に活動する姿が見られるようになっていった



③周りからの信頼

積極的な姿が、周りからも認められ始め、特定の友達だけでなく、色々な人と話をする姿が見られるようになった。生徒会選挙の応援演説の依頼を受け、嬉しそうにしていた。

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

○本校の特徴であり、生徒の関心のある防災に関わる学習を続けることで、自分の知識や活動に自信をもてるようになった。

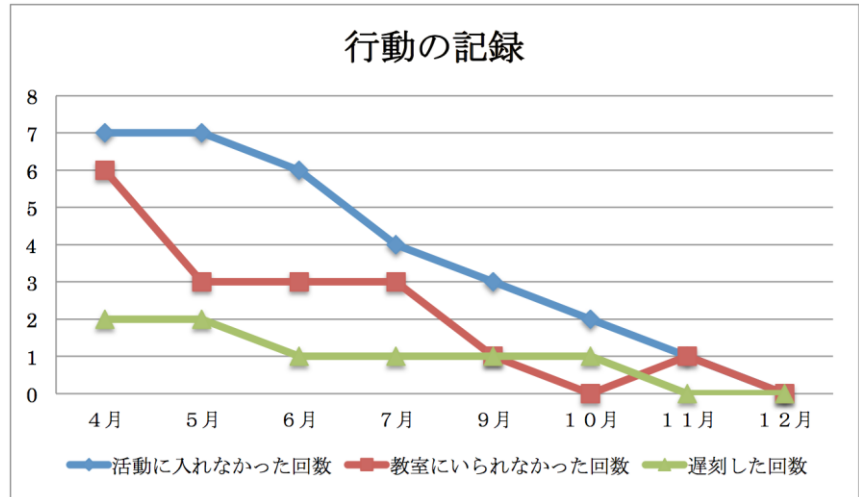
○本人が、地域の防災資源に詳しいこと、自転車で地域を回ることが好きという特徴と、iPadの機能（GPS機能、撮影機能、メモなど）、防災マップ作りがリンクし、完成度の高い防災マップを完成することができた。

○自分の役割をみつけ、活動に主体的に取り組むことができるようになった。

・エビデンス(具体的数値など)

○行動の変化

入学当初からあった、活動への不参加や遅刻の回数が、実践を重ねていくごとに減っていった。

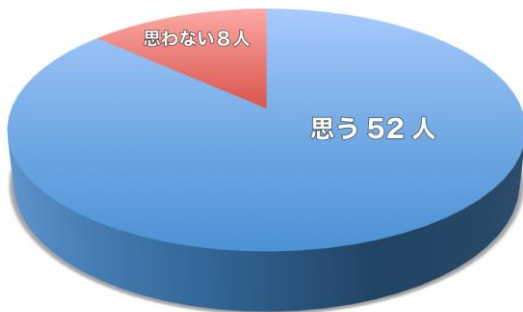


○周りからの評価

事例生徒について、教師だけでなく生徒からも変化を実感する声が聞かれるようになった。

活動に積極的に参加できるようになったことで、周りからの目も変わっていった。

「iPadを使用するようになって変化したと思うか」



<生徒の意見>

- ・活動に入れるようになった。 ・遅刻しなくなった。
- ・嫌だと言わなくなった。 ・勉強熱心になった。

<教員の意見>

- ・主体的に活動できるようになった。
- ・人の意見に耳を傾けることができるようになった。
- ・前向きな発言が増えた。
- ・気持ちを言葉にして人に伝えられるようになった。

・その他エピソード(画像などを含めて)

Aさんの進路について

・入学当初から職種を問わず「就職」を希望⇒他者の目から見れば実態に合っていなかった

11月になって就労移行支援事業所を自ら選択

今の自分を知り、やりたいことについて前向きに、明確に考えることができた。

今の自分には訓練が必要

Q なぜ「清掃」なのか・・・

清掃の仕事がしたい

A この街が好きで この街をきれいにしたいから

⇒防災活動をすることで自分の役割をみつけ、自分のことも、住む街のことも好きになれた。

